



⑩桜島大根を育てよう

窒素肥料は控えめに

桜島大根（通称・島でこん）は、世界一重い大根としてギネス記録にも登録されている鹿児島が誇る特産野菜です。桜島の火山灰土質や温暖な気候ですくすくと育ち、15～20kgの重さのものが多く、まれに30kgを超えるものもあります。

形はかぶに似て、縮れた葉は濃い緑色で根はビタミンCやジアスターゼなどの消化酵素が豊富。水分が多く、おでんや豚骨と一緒に煮込むと短時間で味が染み込み、しかも煮崩れしないので、桜島大根のおいしさを丸ごと味わうことができます。最近は血管の改善効果があるという研究成果が話題になっているので、ぜひ、栽培に挑戦してみたいはいかがでしょうか。

①畑の準備

種まき2週間ぐらい前に、苦土石灰を1平方メートルあたり100g、ほう砂を1平方メートルあたり1g、全面に施し、20cmぐらいの深さによく耕します。この時、小石や前作の残根などは取り除きます。

②種まき

うね幅60cmのうねを作り、株間70～90cmで図のように1カ所5粒の種をまき、覆土して軽く押さえませます。生育前半に窒素肥料が効きすぎると裂根の危険性があるので、基肥として窒素肥料は施さないか控えめに施し、追肥主体の栽培とします。なお9月下旬以降の種まきは、小玉になるので注意してください。

③間引き

1回目に子葉が開いた時、3本残すように間引き、2回目は本葉が2～3枚の頃に2本立ちにし、本葉が8～10枚の頃に1本立ちにします。種まき後30日程度で、基本的には胚軸が緑や白い物、生育が極端に遅い物や早い物を間引きます。

④追肥

種まき後1カ月間は10日おきに液肥を1株1g程度、次の2カ月間は追肥用の化成肥料を2週間おきに1株5g、その後、収穫までは毎週、追肥用化成肥料を1株5g施します。

⑤病害虫防除

種まき後にシンクイムシやヨトウムシ、キスジノミハムシが、病気では軟腐病が発生しやすいので登録のとれた農薬で初期防除に努めます。

⑥収穫

12月に入り低温が続くと肥大します。12月下旬～1月下旬が収穫適期となります。

（鹿児島市都市農業センター）

